



豊島区

面積	13.01km ²
世帯数	185,863世帯
人口	292,339人 (うち外国人) 33,157人
予算	1,529億円
職員数	2,094人

歴史・見所・名所

豊島区は、昭和7(1932)年10月の東京市郡合併により、北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の四つの町が統合され誕生しました。

「豊島」の由来は、古代律令制下の武蔵国の郡名にまでさかのぼることができ、万葉集にも「豊島郡」の地名が出てきます。この由緒ある地名を残したいという思いから、「豊島区」の名称が採用されました。

江戸時代には、江戸市街の郊外として農産物や庭木の栽培が盛んな農村地帯でした。「ソメイヨシノ」は、当時の植木職人が作り出した日本を代表する桜の品種で、染井村(現駒込)が発祥の地といわれています。明治から昭和初期までの近代化の中で鉄道や駅が開通・開業すると、市街地化が進むとともに、学習院、大正、立教大学の区内への移転が相次ぎました。昭和53(1978)年には、池袋のランドマークとなっているサンシャイン60がオープンするなど、都内有数の繁華街として成長し続けています。一方で、古き江戸・東京の雰囲気を残す地域も現存しています。東京で唯一の都電が街中を走り、大正時代を彷彿とさせる池袋モンパルナスをはじめ、雑司が谷には明治の文豪夏目漱石らの眠る霊園や旧宣教師館、南長崎にはマンガの聖地「トキワ荘」、巣鴨ではおばあちゃん原宿として知られる巣鴨地蔵通り商店街が旧中山道の雰囲気を醸し出すなど、魅力あふれる、歴史ある街並みが今でも楽しめます。

概要

豊島区は、23区の西北部に位置し、面積は13.01km²で23区中18番目の大きさです。

令和6(2024)年4月1日時点の人口密度は1平方キロメートルあたり2万2,470人で、16年連続日本一の高密都市となっています。人口総数に占める外国人の割合は11.34%となっており、住民の多国籍・多文化・多言語化が進んでいます。

区内には鉄道5社13路線が走っており、池袋駅の1日の乗降客数は216万人(令和4(2022)年度時点)を超えるなど、交通網の発達したとても便利な街です。区を中心に位置する池袋駅周辺には、複数のデパートや商業施設、オフィスビルなどが集積しています。

また、豊島区は産官学連携を積極的に進めており、「チームとしま」や「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」等の取組により、地域課題の解決に取り組んでいます。



豊島区役所本庁舎

区民のみなさんに開かれた区役所をめざし、平成27(2015)年5月から業務を開始しました。区の生態や植生を生かした屋上庭園「豊島の森」の整備やテラス部分の緑化により、官民を含めた全国の環境対策モデルとなるような「グリーン庁舎」をめざしています。



Hareza池袋

庁舎跡地を活用し、池袋の中心部に令和2(2020)年にランドオープンしたHareza池袋は、芸術文化劇場を中心とした「8つの劇場」と民間施設が位置する周辺エリア一帯の総称で、文化にきざい創出の拠点となっています。

新たな基本構想の策定

豊島区は、平成15(2003)年3月に、区政運営の最高指針として「豊島区基本構想」を策定し、着実に歩みを重ねてきました。その間、東日本大震災、東京23区唯一の消滅可能性都市の指摘、コロナ禍をはじめとして、社会情勢には大きな変化がありました。

このような変化や区民ニーズを的確に捉え、区民目線での区政運営を実現することを目的として、令和7(2025)年3月に区議会の議決を経て新たな基本構想を策定する予定です。

主要課題・将来展望

新たな基本構想では、おおむね10年後のまちの姿として「まちづくりの方向性」(下記①～⑦)を定め、「住みたい、住み続けたい、訪れたい」まちを目指すものとしています。

①「地域と共に支えあう安全・安心なまち」

地域コミュニティの活性化をはじめ、災害・治安や住環境などへの対策をハード・ソフトの両面から講じ、地域と共に安全・安心なまちづくりを進めます。

②「子育てしやすく、子ども・若者が自分らしく成長できるまち」

安心して子どもを産み育てられる環境を作るとともに、子ども・若者の権利が尊重され、希望を持って学び、自分らしく成長できる笑顔あふれるまちづくりを進めます。

③「生涯にわたり健康で、地域で共に暮らせる福祉のまち」

誰もが心と体の健康が維持された生活を送り、自分らしく歳を重ね、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、本人が望む社会とのつながりや自立生活を支えるまちづくりを進めます。

④「豊かな心と活発な交流を育む多彩な文化のまち」

地域の歴史や文化を守り伝え、新たな文化を受け続けるとともに、あらゆる人がより身近に文化を感じ、体験できる環境を整備しつつ、世界とつながるアート・カルチャーが交差するまちづくりを進めます。

⑤「活気とにぎわいを生み出す産業と観光のまち」

スタートアップを生み出すビジネスの成長と変革や、地域経済の持続的な発展を促進するとともに、マンガ・アニメなどの地域資源を生かし、国内外の来街者で賑わうまちづくりを進めます。

⑥「共につくる地球にも人にもやさしいまち」

多様な主体が相互に協力しながら都市のみどりを育み、清潔で美しいまちを創出するとともに、脱炭素地域社会づくりを推進し、良好な環境を次世代へ引き継ぐまちづくりを進めます。

⑦「誰もが居心地の良い歩きたくなるまち」

次世代に誇れる魅力ある都市を創出するとともに、池袋駅を中心に各地域の魅力あるスポットを結び付け、区内全体を回遊性が高く、誰でも安全で歩きやすいウォーカブルなまちづくりを進めます。

※「まちづくりの方向性」は令和6(2024)年12月現在のパブリックコメント時のものです。



トキワ荘マンガミュージアム
かつて豊島区椎名町(現・南長崎)にあった「トキワ荘」の再現施設として、「マンガの聖地」としての発信拠点となるミュージアムが令和2(2020)年7月に開館しました。



としまどりの防災公園(愛称 I KE・SUNPARK)
造幣局跡地に約1.7haの豊島区最大の防災公園が令和2(2020)年7月に開園しました。防災機能に加えて、都心のオアシスとなる魅力的なカフェやコミュニティガーデンを民間事業者により運営しています。



池袋ハロウィンコスプレフェス
多くのコスプレイヤーが参加する日本最大級のハロウィンイベントです。人気コスプレイヤーから、初めての方まで多くの方が参加しており、令和6(2024)年は過去最高となる16万人を超える方が訪れました。
©池袋ハロウィンコスプレフェス 2024



豊島区民による事業提案制度
予算編成過程に区民の声を直接反映させることで、新たな視点から区政課題の解決を図るとともに、区民による区政参画をすすめるため、令和5(2023)年度に初めて実施しました。令和5(2023)年度は233件、令和6(2024)年度は78件の事業提案を頂きました。写真は令和6(2024)年7月より事業化された外国人相談窓口です。